

ふるさとのストーリーを語ろう!! ～日本遺産～

日本遺産とは、地域の持つ歴史的の魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定するものです。長崎県には、九州で最も多い4件の日本遺産があり、これらを文化・観光・物産の振興など地域の活性化につなげていく取組を進めています。(全国の日本遺産：104件)



【長崎県の日本遺産】

国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～

詳しくは右ページ👉



長崎の島は、古代から日本と大陸を結ぶ海上交通の要であり、遣唐使や朝鮮通信使などさまざまな交易・交流・外交の歴史の舞台となってきました。「国境の島」ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、交流が続く2300年に及ぶ壮大なストーリーが人々を魅了します。

[「国境の島 壱岐・対馬・五島」のホームページはこちら](#)
(外部サイトへのリンク)

鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～



明治期の日本は、近代国家として西欧列強に負けないように、海防力を備えるため、国から4つの都市が選ばれ、旧日本海軍の拠点として「鎮守府」が置かれました。水道、鉄道などの整備が投入され、日本の近代化を推し進めました。今もなお現役で稼働する施設も多くあります。

[「鎮守府」構成文化財一覧 \[PDF ファイル/248KB\]](#)

日本磁器のふるさと肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～



九州北西部の「肥前」地域では、陶石、燃料（木々）、水（川）などに恵まれ、日本磁器が誕生しました。各産地で独自の文化が育まれ、その製品は日本の暮らしの中に磁器を浸透させています。この地では、歴史と伝統が培った技術や景観を五感で感じることができます。

[「磁器のふるさと 肥前」構成文化財一覧 \[PDF ファイル/216KB\]](#)

砂糖文化を広めた長崎街道 ～シュガーロード～



江戸時代、海外貿易の窓口であった長崎と小倉を結ぶ長崎街道「シュガーロード」沿いの地域には、砂糖や外国由来の菓子が多く入り、独自の食文化が花開きました。その後も400年以上にわたって発展し続ける砂糖や菓子の文化に触れることができます。

[「シュガーロード」のホームページはこちら](#) (外部サイトへのリンク)

[文化庁「日本遺産」ホームページはこちら](#) (外部サイトへのリンク)

【日本遺産「国境の島 杵岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」】

杵岐・対馬・五島は、地理的に中国大陸や朝鮮半島に近いことから、古代より日本と大陸を結ぶ海上交通の要衝であり、交易・交流が行われ、先端の文化が導入された一方、ときには国防の最先端として緊張を強いられた地域です。

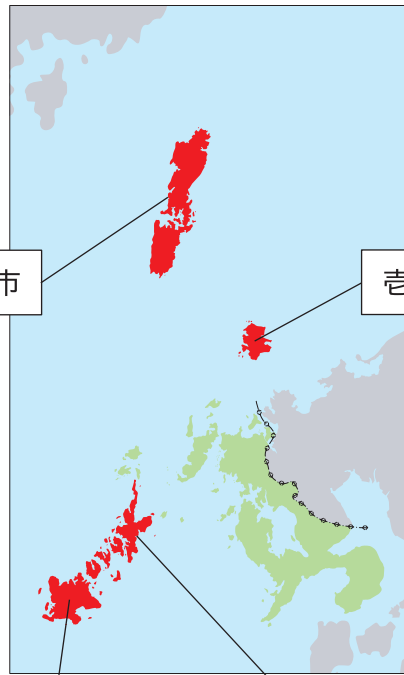
日本において「国境」という大陸との接点が肌で感じられる数少ない場所であり、海とともに生き、交流により育まれた島の独特の文化が息づいています。

「国境の島」のストーリーは、平成27年度、日本遺産の第一弾（18件）の一つとして認定され、令和3年度の文化庁による総括評価・継続審査において認定継続のうえ他地域のモデルとなる重点支援地域として選定されました。

主な構成文化財

日本遺産のストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財を構成文化財といいます。

「国境の島」の構成文化財の数
対馬市 13件、杵岐市 10件、五島市 4件
新上五島町 3件 計 30件



金田城跡（国特別史跡）
唐や新羅の日本侵攻を防ぐ目的で築かれ、防人が置かれた



対馬藩主宗家墓所
江戸時代、朝鮮半島との外交・貿易を担った宗家の菩提寺



朝鮮国信使絵巻
朝鮮通信使の行列の様子を色彩豊かに描いた絵巻



原の辻遺跡（国特別史跡）
魏志倭人伝に記された一支国の王都



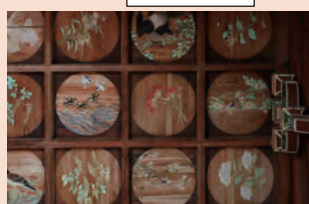
杵岐古墳群
6世紀後半から7世紀前半に築造され、多くの遺物が大陸との交流を物語る



勝本城跡
豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に築かせたとされる駅城



三井楽（みみらくのしま）
遣唐使船の最終寄港地であるとともに亡き人に逢える島ともいわれる



明星院本堂（花鳥図）
空海が唐から帰朝する途中でこの寺にこもり、明星院と名付けたといわれる



日島の石塔群
40基以上の墓碑・墓石がある中世古墓群で、海上交通の拠点であった



最澄ゆかりの山王信仰
最澄が遣唐使の航海安全を願って山王山を信仰の山として開いたといわれる